

■太田英茂 自らの取組みに疑念を抱き続けながらも、多くの人材を育てた昭和宣伝広告の先駆者。

おおたひでしげ

大本教・・・1892＝ 小学校長太田鶴雄と(川上)たかゑの子に生まれる。直後に父が南安曇郡視学に転出し不在に。

日清戦争始・1894＝ 2歳： 男盛りの働き手がないため、窮乏のなかに育つ。
白馬会・・・1896＝ 4歳： 弟矩雄が誕生。

田中正造直訴1901＝ 9歳：

日露戦争終・1905＝13歳： この年、曾祖父川上彦三郎が死去し、川上家に男手なくなる。

アヲヲ創刊・1908＝16歳： 父親に会うため上京するも会えず、海老名弾正と出会い、本郷教会で入信、その薫陶を受ける。

韓国併合・・・1910＝18歳： さらに、植村正久の神社に学び、内村鑑三・富永徳磨・吉野作造らの教化を受ける。

明治天皇没・1912＝20歳：
_本郷教会で修道生活・伝道活動を行ううち、8つ下の長瀬富郎と知り合う。
_当時のインテリと同じく、社会主義思想からも強い影響を受け。

ベルリン条約・1919＝27歳：
大暴落・・・1920＝28歳： 海老名弾正が京都同志社大学総長に赴任し、以後、雑誌{新人}の編集を手伝う。父が台湾で死去。

原敬首相暗殺1921＝29歳：
水平社結成・1922＝30歳： {新人}の編集をまかされる。
関東大震災・1923＝31歳： 曾祖母志ゆんが死去。_大震災で{新人}八月号が消失したため、自ら再編集して12月に無料配布。
護憲三派圧勝1924＝32歳： _本郷教会から独立、自ら{新人社}を興し、社会主義団体の日本フェビアン協会の機関誌に改めるが、そのラディカルさが仇となり、官憲との闘いばかりか、教会からの非難を一気に誘発、ノイローゼとなって

日本時代始・1926＝34歳 結婚し、長女が誕生。_廃刊に至る。長瀬富郎の勧誘で{花王石鹸本舗長瀬商会}に広告文案係として入社、
金融恐慌・・・1927＝35歳： この年、*長瀬富郎が花王三代目社長に就任するや、その参謀のようになり、
共産党事件・1928＝36歳：

世界恐慌・・・1929＝37歳： 花王の幹部養成社員を集めた{二戦寮}の寮長を引受けて住込む。
海軍軍縮条約1930＝38歳： 長男誕生。_社員の思想教育のための社内報{ナガセマン}を創刊、前例の無いキャンペーンと、指名コンペで原弘の包装デザイン案を採用するなど、“花王の怪僧ラスプーチン”といわれるほどになるが、
満州事変・・・1931＝39歳： *新装花王石鹸売り出すも、経済効果上がらず辞職。{共同広告事務所}を設立。{山岸商店}の“千代田ポマード”の販売にあたり、常識をくつがえすパッケージと、木村伊兵衛による一連の広告写真で意表を突き、

国際連盟脱退1933＝41歳： この年、名取洋之助・木村伊兵衛・原弘らが{日本工房}創立。妻が死去。
帝人疑獄事件1934＝42歳： {日本工房}が分裂して、_木村伊兵衛・原弘らが創立した{中央工房}の第一回展{写真を主とする広告の展覧会}に、“千代田ポマード”の広告で使用した写真をその元写真と比較する企画を出し、{読売新聞}とタイアップして、初来日する大リーガーに、ペーブ・ルースを起用したプロモーションで話題をさらう。

芥川直木賞始1935＝43歳： 共同広告事務所員松本貞子と再婚。この頃、食養会理事などを務める。
この間、山岸商店の広告部長九里乙彦の名で代弁させた解説文などがあるが、自身のペンネームともいう。

日中戦争始・1937＝45歳：
大政翼賛会・1940＝48歳： この時期、宣伝雑誌・広告雑誌などに宣伝論・広告論などを執筆。
日米開戦・・・1941＝49歳：

_共同広告事務所を閉鎖し、
創価学会検挙1943＝51歳： 一時、参謀本部対外宣伝機関{東方社}事務総長として社内組織の改造を担当。
年金+総武装 1944＝52歳： 戦局進展で、波多村太田館、さらに梓村立田の川上教一宅に疎開。
敗戦・・・1945＝53歳： 母たかゑ宅で終戦放送を聞く。
新憲法公布・1946＝54歳： 梓村の青年たちと語る機会が多くなり、初めて農業に触れ、
新憲法施行・1947＝55歳： 本格的に農業を始める。母たかゑが死去。

三大事件・・・1949＝57歳： 綿密なノートをつけながら真摯に励むうち、村民とも打ち解けるようになったが、
朝鮮戦争始・1950＝58歳： 披露困憊して農業をやめ、
独立回復・・・1951＝59歳： 再度上京し、_長瀬富郎の援助で窮乏を凌ぐうち、
メダール事件・1952＝60歳： *吉田秀雄社長に勧誘されて、{電通}に入社し広告相談所所長となる。

55年体制始・1955＝63歳： 週間意見書を書き始め、

美智子妃・・・1959＝67歳： この年まで続けたが、
安保闘争・・・1960＝68歳： 神経痛に悩み、_出版記念会席上で安保反対反米演説し、{電通}辞任を決意。
イタイ病始・1961＝69歳： _{電通}退社。この頃、「神経痛追放記」など印刷された手紙を友人知人に発送、{太田通信}が始まる。
全国総合計画1962＝70歳： 銀座に事務所をかまえる(高橋錦吉と同居)。長男が結婚。
TV宇宙中継始1963＝71歳： 電通社長吉田秀雄が死去。

東京リビック 1964＝72歳： _東銀座ビルに{OAC事務所}創設し、老舗{酒悦}を復活隆盛に導き、{桜井甘精堂}の仕事にのめりこみ、
大学紛争始・1965＝73歳： 初孫が誕生。

いざなぎ景気1966＝74歳： 広橋桂子の協力で、_日宣美展に反戦広告など出展。

美濃部都知事1967＝75歳： 日本共産党離脱者に慰留の手紙を書く。

震ヶ関ビル・1968＝76歳： 意思疎通に行詰まり{桜井甘精堂}に絶縁状を発信。「日本デザイン小史」の企画草案を作り、

全共闘・・・1969＝77歳： *{蒸発宣言}を発送して、故郷梓川村に隠棲するが、村の変貌に孤立感が深まる。

大阪万博・・・1970＝78歳： 「日本デザイン小史」が刊行されるが、自らの名は記載されず。

ドノック・・・1971＝79歳： _{輪郭}を発送して文通を再開。

日中国交回復1972＝80歳： 松本山草会に入会。

石油ショック1973＝81歳： この頃から_前立腺を患い、

成田衝突・・・1978＝86歳： 手術のため信州大学医学部附属病院に入院。手術中、脳梗塞を起こす。

革新大敗北・1979＝87歳： 鹿教湯でリハビリに励む。

・・・1981＝89歳： 自宅裏庭で再度脳梗塞の発作を起し、

中曽根内閣・1982＝90歳： _三度目の発作後、没した。

多川精一「広告がわが生涯の仕事に非ず」、川畑直道「原弘と“僕達の新活版術”」、